平成27年旭市議会第2回定例会会議録

議事日程（第2号）

平成27年6月11日（木曜日）午前10時開議

- 第 1 議案質疑
- 第 2 常任委員会議案付託
- 第 3 常任委員会請願付託

本日の会議に付した事件

- 日程第 1 議案質疑
- 追加日程 議案第5号、第6号直接審議（先議）
- 日程第 2 常任委員会議案付託
- 日程第 3 常任委員会請願付託

出席議員（22名）

1番	林 晴 道	2番	高 橋 秀 典
3番	米 本 弥一郎	4番	有 田 惠 子
5番	宮 内 保	6番	磯 本 繁
7番	飯 嶋 正 利	8番	宮 澤 芳 雄
9番	太 田 將 範	10番	伊 藤 保
11番	島 田 和 雄	12番	平 野 忠 作
13番	伊 藤 房 代	14番	林 七 巳
15番	向 後 悦 世	16番	景 山 岩三郎
17番	滑 川 公 英	18番	木 内 欽 市
19番	佐久間 茂 樹	20番	林 俊 介
21番	高 橋 利 彦	22番	林 正 一 郎

欠席議員（なし）

説明のため出席した者

市 長	明 智 忠 直	副 市 長	加 瀬 寿 一
教 育 長	刃 田 哲 雄	病 院 事 業 者 管 理 業 者	吉 田 象 二
秘 書 広 報 課 長	飯 島 茂	行 政 改 革 課 長	佐 藤 一 則
総 務 課 長	加 瀬 正 彦	企 画 政 策 課 長	横 山 秀 喜
財 政 課 長	林 清 明	税 務 課 長	林 利 夫
市 民 生 活 課 長	大 木 廣 巳	環 境 課 長	浪 川 昭
保 険 年 金 課 長	渡 邊 満	健 康 管 理 課 長	加 瀬 幸 重
社 会 福 祉 課 長	加 瀬 恭 史	子 育 て 支 援 課 長	大 矢 淳
高 齢 者 福 祉 課 長	宮 内 隆	商 工 観 光 課 長	向 後 嘉 弘
農 水 産 課 長	高 木 寛 幸	建 設 課 長	大 久 保 孝 治
都 市 整 備 課 長	川 口 裕 司	下 水 道 課 長	高 野 和 彦
会 計 管 理 者	高 木 松 夫	消 防 長	品 村 順 一
水 道 課 長	鈴 木 邦 博	病 院 事 務 部 長	飯 塚 正 志
病 院 経 理 課 長	土 師 学	庶 務 課 長	角 田 和 夫
学 校 教 育 課 長	石 見 孝 男	生 涯 学 習 課 長	高 木 昭 治
体 育 振 興 課 長	加 瀬 英 志	監 査 委 員 会 長	田 杭 平 三
農 業 委 員 会 事 務 局 長	岩 井 正 和		

事務局職員出席者

事 務 局 長	阿 曾 博 通	事 務 局 次 長	高 安 一 範
---------	---------	-----------	---------

開議 午前10時 0分

○議長（景山岩三郎） おはようございます。

ただいまの出席議員は22名、議会は成立しました。

これより本日の会議を開きます。

◎日程第1 議案質疑

○議長（景山岩三郎） 日程第1、議案質疑。

議案の質疑を行います。

議案第1号から議案第12号までの12議案を順次議題といたします。

議案第1号について、質疑に入ります。

質疑の通告がありますので、発言を許可いたします。

高橋秀典議員。

○2番（高橋秀典） おはようございます。また、発言の許可をいただきましてありがとうございます。

補正予算書の11ページになります。

畜産振興費のうち、説明欄1、畜産競争力強化対策整備事業について。

これは、本年度からの新事業ということでございますので、その内容について詳しくお伺いいたします。

○議長（景山岩三郎） 高橋秀典議員の質疑に対し、答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（高木寛幸） それでは、補正予算書の11ページ、畜産競争力強化対策整備事業の事業内容についてお答えさせていただきます。

この事業につきましては、国の新規事業であります。

事業の目的といたしましては、担い手の高齢化や後継者不足が深刻な畜産を活性化し、高収益型の畜産・酪農体制を実現するため、畜産農家を中心に、地域の関係者、J A、耕種農家、飼料会社、行政、こういった方々が連携して地域ぐるみの高収益型畜産体制、畜産ク

ラスター事業と言うんですけれども、これを構築いたしまして、経営規模の拡大、コスト削減、付加価値向上、需要創出等を目指す取り組みを支援する事業でございます。

事業の内容といたしましては、収益力を向上させる計画、目標、これを畜産クラスター計画と言いますが、これに基づきまして、畜産農家を中心とした地域全体での収益性の向上に取り組むために必要な施設、畜舎・堆肥舎等の整備に対しまして補助金が交付されるものがあります。

事業の取り組み主体というのは、畜産クラスター計画で位置づけられた中心的な畜産経営体で、補助率は事業費の2分の1以内であります。全て国の補助金ということでございます。

旭市で、今回、採択されました事業は、肉用牛のクラスター協議会の畜産農家1戸、事業計画は、牛舎1,759.5平方メートル及び堆肥舎810平方メートル、こちらの施設整備、総事業費8,000万円でございます。補助率は2分の1以内ですが、県で調整配分されまして、補助金額は3,712万7,000円となっております。4月に事業採択ということになったために、本定例会において補正予算として計上させていただきました。

以上でございます。

○議長（景山岩三郎） 高橋秀典議員。

○2番（高橋秀典） この事業ですけれども、国としては、TPP等を見据えた上で、我が国の畜産の収益性を向上させ、また、国際競争力の強化を図ると、そういった施策であるのかなど、私はそういうふうに理解しておりますけれども、事業の実施主体は、県に認可された畜産クラスター協議会ということでございます。県内の畜産クラスター協議会の件数、また、併せて、今回の応募件数、採用件数についてお伺いいたします。

○議長（景山岩三郎） 高橋秀典議員の再質疑に対し、答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（高木寛幸） それでは、今年度の応募についてということでお答えさせていただきます。

まず、旭市のほうでお答えさせていただきたいと思います。

今回、旭市からは、養豚のクラスター協議会から5戸、酪農のクラスター協議会から1戸、肉用牛のクラスター協議会から1戸、合計三つの協議会、7戸の畜産農家より、国へ事業要望をいたしまして、先ほど申し上げたとおり、肉用牛のクラスター協議会の畜産農家1戸が採択されているという状況であります。

千葉県内のほうですけれども、千葉県内のクラスター協議会は、全部で26協議会あります。

そのうち、12協議会、19戸の畜産農家が事業要望を行いました。その結果、6協議会、7戸の畜産農家が採択されております。旭市がその中に1戸入っているという状況でございます。

以上でございます。

○議長（景山岩三郎） 高橋秀典議員。

○2番（高橋秀典） この畜産競争力対策整備事業ですが、補助対象が飼養管理施設、また排泄物処理施設、自給飼料施設、加工施設、また、そういったものの補修・改修、さらに、新規就農者の家畜導入経費など、多岐にわたるものになっているようでございます。本事業の名のとおり、今後、旭市の畜産競争力を向上させていく上で、非常に有利な制度であるというふうに考えます。

本年度は、県の予算としては2億円、2分の1補助ということなんですけれども、旭市の畜産が今後は国際市場で戦うというような可能性もあるわけでございますので、今後、市からの追加補助ということは検討する可能性があるのかどうか、お伺いいたします。

○議長（景山岩三郎） 高橋秀典議員の再々質疑に対し、答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（高木寛幸） 市の追加補助ということでありまして、この国の補助事業に当たりましては、事業費の2分の1が国の補助ということでありまして、高い補助率であるということもあり、現在、市の追加補助というのは考えておりませんが、今後につきましては、国、県、また県内市町村の状況を注視、確認しながら事務を進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（景山岩三郎） 高橋秀典議員の質疑を終わります。

続いて、高橋利彦議員。

○21番（高橋利彦） 重複しますが、同じく議案第1号の11ページ、畜産競争力強化対策整備事業補助金についてお尋ねします。

この目的については分かりましたが、この事業は、国の新規事業ということでございますが、これは単年度だけの事業なのか、それとも、これからも継続した事業になるのか。

それから、今年は肉牛ということですが、旭市は養豚が多いのに、なぜ養豚農家が対象にならなかったのか。それから、そういう中で、選定はどこでしたのか。

それからあとは、今は、搾乳農家が採算が合わないということで廃業しているわけでございます。そういう中で、乳製品の加工品、バターもだいぶ不足しているということが言われ

ている中で、なぜ搾乳が対象にならなかったのか、その辺をお尋ねします。

○議長（景山岩三郎） 高橋利彦議員の質疑に対し、答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（高木寛幸） それでは、お答えさせていただきます。

単年か、継続かということですが、畜産競争力強化対策整備事業につきましては、平成26年12月に閣議決定された地方への好循環拡大に向けた緊急経済対策の一つとして、農林水産業の振興ということで畜産競争力の強化が支援策として位置づけられておりますので、当面続くと思われまます。

なぜ牛かということですが、牛の関係が採択になった理由につきましては、国の採択になりますので、詳細については分かっておりませんが、先ほどおっしゃいましたように、全国的に酪農、肉牛の生産農家の担い手不足が問題になっております。県内においても、酪農、肉牛の生産農家の戸数及び飼養頭数が年々減少してございまして、同じ状況になっております。こういった形で、本県でも牛関係の事業が採択されたものと考えております。

なぜ搾乳が該当にならなかったのか。そちらも、県のほうの採択でありますので、詳細につきましては、市のほうでは不明でございます。

以上でございます。

○議長（景山岩三郎） 高橋利彦議員の質疑を終わります。

以上で通告による質疑は終わりました。

議案第1号の質疑を終わります。

議案第2号について、質疑に入ります。

質疑の通告がありますので、発言を許可いたします。

高橋秀典議員。

○2番（高橋秀典） 発言許可をありがとうございます。

それでは、議案第2号の道の駅に関してですが、第6条の4号になりますが、指定管理者の施設・設備維持管理についてお伺いいたします。

維持管理費に含まれるものは線引きが難しい部分もあるとは思いますが、この維持管理費と地代家賃相当分が同額で相殺となるとの説明を全員協議会のほうでお伺いしました。

ただ、その金額の明示はありませんでしたので、実際の維持管理費、つまりは家賃相当分というのが幾らになるのか、これをお伺いいたします。

○議長（景山岩三郎） 高橋秀典議員の質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長（横山秀喜） それでは、維持管理費等々の質問にお答えさせていただきます。

これまで市が会社へ払うべき施設管理部門となる維持管理費と、会社が市へ払うべき施設の使用料となる地代家賃が同額となり、相殺されるということで説明をさせていただいております。この考え方は、ほかの自治体でも事例はありますが、民間の賃貸を参考にしているというようなものであります。

ですが、指定管理者制度におきましては、運営者が支払う地代家賃といった概念はありません。

維持管理費の算定についてのご質問ですが、具体的に申し上げますと、光熱水費、芝生広場など緑地の管理費、施設の清掃費、各種法令に基づく保守点検業務、夜間警備、市の情報発信業務、それらに伴う人件費1名分の経費を合計すると約3,400万円と計算しております。

なお、この維持管理費につきましては、指定管理者の収入となる利用料金で賄える見込みであるため、市からの支払いは予定しておりません。

以上でございます。

○議長（景山岩三郎） 高橋秀典議員。

○2番（高橋秀典） ありがとうございます。

維持管理費と家賃の件について確認ですが、通常は利用料のみでの運営ができないような施設の場合には、維持管理費が指定管理料に反映されて、委託料として市の負担になっているわけです。

しかし、道の駅の場合には、予定収入の中で維持管理費を賄えるので、この支出3,400万円を市が払わなくて済むと。ただ、指定管理者側が地代家賃を市に払うべきとの考えを入れた時に、この3,400万円というのが地代家賃分と見て、いわゆるツーペイで収支計画記載の家賃ゼロということになると、そういう解釈でよろしいのでしょうか。

また、実質的に、道の駅は、施設の収入のみで運営可能であると。

また、通告で二つあったのを、ここで併せて質問させていただきます。

通告にあります質問の二つ目ですが、以前より、道の駅に防災機能を持たせるということに伺っておりましたが、本条例には、防災機能の規定はありません。これは、設置目的に規定する必要がないのかということでお伺いしたいと思います。

もう1点、本条例制定後の10月オープンまでのスケジュールの詳細についても、併せてお伺いしたいと思います。

○議長（景山岩三郎） 高橋秀典議員の再質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長（横山秀喜） 維持管理費と地代家賃とが相殺されてゼロということですが、先ほど申し上げましたが、高橋議員がおっしゃるとおり、その解釈で正しいと思います。

それと、防災機能に関する規定ということですが、設置管理条例では、防災機能に関する規定というのはございません。といいますのは、道の駅の整備の目的において、道の駅による防災機能の活用を位置づけしているのはご案内のとおりです。これにつきましては、東日本大震災の教訓を生かし、災害時には救援活動等を行う施設として活用するという事であり、

防災の重要性として、国土交通省のほうからも、道の駅による防災機能の活用、災害時には救援活動を行う施設としての役割が期待されております。

公の施設の設置管理条例は、その施設の基本的事項を定めることとされておりますので、防災機能については、あくまでも付加的な機能ということになりますので、本条例には規定してございません。

ただし、道の駅の防災機能ということにつきましては、旭市地域防災計画において、災害時の機能を確保するためということで、道の駅を位置づけしてございます。

オープンまでのスケジュールということですが、まず、工事の関係ですが、建物等は7月末、それと、駐車場につきましては8月末に完了する予定でおります。

本条例の議決をいただいた後は、7月下旬に予定しております臨時議会において、指定管理者の指定についての議案を上程させていただきます。

指定管理者の指定の議決後には、協定を結び、8月からいよいよ開業の準備に入ることとなります。社員は8月下旬ごろ、パートは9月下旬ごろから採用する予定だということで聞いております。そして、10月16日金曜日に招待者を対象に、開業セレモニーとなる竣工式を開催いたします。17日土曜日が開業日となりますが、翌18日日曜日と併せてオープニングイベントを開催いたします。

開業後は、皆様の応援とご利用いただけますよう、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○議長（景山岩三郎） 高橋秀典議員。

○2番（高橋秀典） 維持管理費の内容を伺った限りでは、内容的には固定費というふうに考えていいのかと思うんですけれども、使用状況によって、年ごとに変動するという部分もある

ると思いますし、また、内容上、非常に線引きが難しい所もあるのかなと思いますので、相殺勘定で家賃ゼロという記載が、一般にちょっと違和感を覚えるのではないかというふうに思ったのでお伺いさせていただきました。内容は理解いたしました。

管理費用に関する部分は、今後、協定で定めることと思いますので、その辺、ご検討をお願いしたいと思います。

2点目の防災機能についてですが、防災は付加的な機能となるということでお伺いいたしました。

では、災害時、具体的に道の駅がどのような機能を発揮するのか、期待されているのか、この点についてお伺いいたします。

○議長（景山岩三郎） 高橋秀典議員の再々質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長（横山秀喜） 具体的に防災機能は何かというご質問にお答えします。

災害発生時の機能ということになります。

一つ目は、来場者や帰宅困難者のための一時避難スペースとしての駐車場やトイレ、建物を活用できます。

二つ目ですが、食料等の物資の収集拠点としての活用が見込めます。

三つ目としまして、非常用発電を準備しますので、それを利用し、情報発信板からの災害情報等の発信、コンセントによる電源の確保、建物の照明等に充てたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（景山岩三郎） 高橋秀典議員の質疑を終わります。

続いて、高橋利彦議員。

○21番（高橋利彦） それでは、議案第2号の6ページ、道の駅使用料についてお尋ねいたします。

まず、農産物販売施設は、販売額の100分の30ということですが、これは、冷凍施設を使ったものも、それから、常温で販売するものも同じ30%なのか。

それから次に、飲食提供施設は1か月23万2,500円、そこに売上げの100分の5ですが、この施設の面積と平米当たりの単価、そして、テーブルとか調理器具、食器など、什器類を含めた額なのか。

それから、これも売上げの100分の5ということですが、ガス、水道料を含めて

5%なのか。

それからあと、テナントスペースが1から3までありますが、それぞれの面積と、賃貸料がここにありますが、平米当たりの単価、それと、これは場所は全然考慮していないのか。やはり、店でも売れる場所と売れない場所があると思うんです。その辺は全然考慮していないのか。

それから、イベント芝生広場ということでございまして、これは売上げの100分の30です。売上げというのは、どういうふう把握するのか。

以上、お尋ねします。

○議長（景山岩三郎） 高橋利彦議員の質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長（横山秀喜） ただいまのご質問にお答えします。質問の項目がかなり多かったので、答弁漏れがありましたら、ご指摘のほうをお願いしたいと思います。

まず、農水産物の販売施設100分の30は、施設を使っても一緒かというようなご質問です。

これにつきましては、100分の30というのは、全て100分の30ということではございません。出荷する品目、例えば、農畜産物等であれば、市内の方であれば10%とか15%とか、品目ごとによって変わってきます。ですので、ご指摘の施設を使った場合というのは加工品になるのかと思うんですが、それらについての率が定められておりますので、それに基づいたということになります。

ですので、使用料・手数料条例の書き方は、条例の手数料の100分の30というふう規定してございまして、本文の設置管理条例の中に指定管理者が市長の許可を得て率を定めるというようになっています。

現実的には、その率というのは、もう既に、出荷者の希望というか、募集をしていますので、広報等で品目ごとに手数料率みたいなものは明示して募集しているというのが現状でございまして。

ですので、冷蔵庫を使ったか、使わないかというよりは、手数料は売るものの品目によって手数料率が変わるというような考え方でございます。

それから、レストランのほうでございまして。

面積固定費プラス売上げによる歩合という考え方をとっているんですが、その辺の面積と単価ということです。これにつきましても、現実的には、面積の単価を算出して使用料を決めているという方法ではないんです。面積ははっきり出て、割り返せば面積単価は出ます。

その前に、どのように飲食提供施設の使用料を決めたかということをご説明させていただきますと、ちょっと面倒になるんですが、そのレストランでの規模だとか、テーブル数、お客さんの入る利用数、ですから、この辺が概念的には広さ、面積等になると思うんですが、それを統計的に売上げの予想をしてございます。それが事業計画等で、レストランからの売上げ計画ということで出てくると思うんですが、それを国で持っているレストランの経営の率、賃貸料の率が職種によって若干違うんですけれども、8%から12%というふうにして経済産業省のほうは発表しています。その中間値である10%を採用し、半額を歩合の5%、10%のうちの半分の5%を売上げに応じた利用料、それから、残りの金額を固定費というふうにして計算しています。ですので、定額部分と歩合部分、そんな形でとっています。ですので、面積的な所も含めての売上げ想定ということでお願いしたいと思います。

具体的に、その金額を割り返した平米単価ということになりますと1,051円、丸めまして平米当たり1,000円というふうに見ています。レストランの面積につきましては、232.5平方メートル、それと同時に、ほかのテナント1、2、3の面積のご質問ですが、申し上げますと、テナントスペース1については59.3平方メートル、テナント2につきましては22.7平方メートル、テナント3につきましては11.3平方メートルでございます。

それから、レストランのほうに戻りますが、什器関係、テーブルとか、その辺の準備の仕方なんです、レストランが経営できる状態の備品関係、つまり、テーブルとかいす、屋内、屋外も含め、それから厨房施設等です。これらについては、市のほうで、あらかじめ設備の中に含まれています。食器類ですとか、そういうもの、いわゆる消耗品に近いものは事業者のほうで用意するということになります。

それから、光熱水費のご質問もあったと思うんですが、これにつきましては、各施設でそれぞれ子メーターを用意しまして、子メーターの使用料に応じて事業管理者が徴収するといったようなことになります。

それから、テナント等の場所の考慮につきましては、使用料の金額には想定していません。

芝生広場の100分の30は、これも先ほど申し上げましたとおり、上限の手数料を設定しているということで、芝生広場で営業するような場合、どういう業種が出てくるか等もありますけれども、それについては100分の30以内で指定管理者が市長と協議をして定めるといったようなことになりますので、あくまでも、手数料の設定の仕方は100分の30と上限だけを設定しています。

(発言する人あり)

○企画政策課長（横山秀喜） 売上げの把握の仕方は、かなり技術的には難しいと思うんですけども、それは、指定管理者と出店する事業者との取り決めになると思います。

以上です。答弁漏れがあったら、お願いします。

○議長（景山岩三郎） 高橋利彦議員。

○21番（高橋利彦） 分かりました。

ただ、そんな中で、先ほど、飲食店の説明だと、テナント方式のように私は思えるんですが、最初は直営ということではなかったのではないですか。

それから、イベント広場の芝生は、信頼関係なら、それでもいいと思うんですが、いずれにしても、飲食関係は直営なんですか、それともテナント方式なんですか。まず、その辺をお尋ねします。

○議長（景山岩三郎） 高橋利彦議員の再質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長（横山秀喜） ご質問ですが、レストランにつきましては、指定管理者の直営ということになります。

にもかかわらず、なぜ使用料が設定されているかというご質問だと思うんですが、今回の使用料・手数料条例の場合には、そこで営業できる等、もしくは貸し付けできる、これは会議室も含みますが、全てのケースを想定し、包括的に料金を設定してございます。ですので、使用料・手数料条例に盛り込んでいます。

現実的には、指定管理者がそこでレストランをやる場合に、今、ご指摘のように、利用料金が発生します。

ただし、その利用料金は、そのまま指定管理者の収入となりますので、相殺されるといったような形に現実的にはなりません。

以上です。

○議長（景山岩三郎） 高橋利彦議員。

○21番（高橋利彦） 直営なら、個々にメーターをつける必要はないでしょう。一括で全部やるのが本当ではないんですか。

それと同時に、飲食店の施設の金額の基準は国の云々と言いましたけれども、国は関係ないと思うんです。やはり、その地域の実情があると思うんです。そういう中で、全ての料金を設定するに当たって、例えば、銚子のイオンにはJ Aちばみどりが入っています。それがどういう使用料を払っているか。それから、この近辺の道の駅は、どういう使用料などの単

価設定をしているか。それを国ではなく、行政的な考えで、その地域の経済の実情に応じた単価で出して、それを把握していると思うんですが、分かれば、お答えいただきたいと思います。

○議長（景山岩三郎） 高橋利彦議員の再々質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長（横山秀喜） 地域の実情での使用料ということでございます。

近隣の市町村が経営している道の駅等につきまして、例えば、手数料ですとか、その場所の使用料等につきましては、オープンにしていないというか、それが現実でございます。

例えば、先ほど、売上げの予測の8%と言いましたけれども、7%から12%の売上げ予測の中でも平均値を使っているということで、それは、決して、欲張ってもいない数字かなというふうな見方をしています。

ただ、使用料の設定に関しましては、今ご指摘のこと等も含めて、道の駅の建設準備委員会の中で十分協議して利用率等を定めていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（景山岩三郎） 高橋利彦議員。

○21番（高橋利彦） やはり、採算が合わなかったら、幾ら入っても撤退してしまうわけです。そういう中で、実情を調べた中で料金設定をするのが本来の姿だと思うんです。

ちなみに、農協が銚子のイオンに入っています。農協が借りているのは26坪だそうです。それで、保証料が坪10万円、あとは、26坪で毎月賃料が坪4,500円、ですから、11万7,000円です。それから、あとは売上げに応じて、1,000万円以上の場合は2%、1,000万円を下回る場合は3%を共通経費としてイオンに払っているらしいんです。その中で、今、農協が約2億円売り上げて、あの場合は農協から人を出していますから、大体チャラだそうなんです。

いずれにしても、行政的な感覚でなく、民間的な感覚でやっていただきたい。やはり、それが道の駅が成功するもとだと思います。

以上です。

○議長（景山岩三郎） 高橋利彦議員の質疑を終わります。

続いて、滑川公英議員。

○17番（滑川公英） 同じく第2号議案の6ページの明細が出ておりますけれども、これは、先日、課長にお話したように、普通の人は、全部、例えば30%を取られるよと、このようにしか感じない条例をなぜ作るんですか。検討してきたことと全然違いますよ。

なおかつ、課長の答弁は間違っている。どこが間違っているか分かりますか。レストラン

というのではないですよ。指定管理者がバイキングレストランをやるだけで、そのほかのことは、全部飲食コーナーです。レストランがどこにあるんですか。そのようなことをやってきたんですか。もう1回、答弁をやり直していただきたい。

○議長（景山岩三郎） 滑川公英議員の質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長（横山秀喜） まず、条例の制定の仕方ということでございます。上限を、先ほど来、100分の30ということで制定させていただきましたのは、旭市の条例の制定の仕方として、ほかの使用料・手数料が発生する施設がたくさんありますけれども、全て使用料・手数料条例の中で規定しています。そこで100分の30という、そこだけを見ますと、100分の30の使用料・手数料が必要だというような勘違いをするんじゃないかというご指摘だと思いますが、これにつきましては、先ほど申し上げましたとおり、品物、売るものによってケースが違いますので、上限を設定して、現実的には設置管理条例のほうで、その範囲内において、指定管理者が市長と協議して定めるというような形で作らせてもらっています。

ですので、基本的には、使用料・手数料条例の中では「範囲内」とか「以内」という表現が適切ではないというようなことで条例の制定の仕方の逐条解説等には明記されておりますので、そのような作り方とさせていただきました。

それから、先ほど来、私の言葉の中でレストランというのではないというご指摘ですが、確かに、そのとおりです。飲食提供施設ということで改めさせていただきます。申し訳ありませんでした。

○議長（景山岩三郎） 滑川公英議員。

○17番（滑川公英） 条例も簡単に言えば、皆さんは、どこかの条例をコピーしてきているんでしょう。今言ったように、条例を作るには、こういうのがありますよと言いますが、でも、だったら、市民に分かりやすい条例にするのが当たり前ではないですか。

なおかつ、これは、季楽里あさひをコントロールするための条例でしょう。違うんですか。指定管理者をコントロールするための条例ではないですか。そのために条例を作るわけでしょう。これが一番基本になるわけでしょう。それで、これだけでやっていったら、今度、指定管理者の経営陣が何だという話になりませんか。この条例を市民のあなた方が言う有識者にお見せしましたよ。そうしたら、何だこれほと、みんな言っています。こんなに高いのかと。参加する人がいるのかと言っています。ですから、分かりやすい条例にしたっていいじゃないですか。以内とか、上限とか、お言葉ですが、市長も2年間、建設準備委員会に少な

くても20回以上参加してもらっているんです。ですから、もう少し市民に分かりやすい条例にするのが当たり前じゃないですかということです。だから、皆さん、今、質問しているように、おかしいんじゃないかというような話がいっぱい出てくるわけです。

○議長（景山岩三郎） 滑川公英議員の再質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長（横山秀喜） ご指摘の意味は、十分理解しています。

ただ、使用料・手数料条例の制定の仕方は、条例なりの作り方のルールということに基づいて上限を設定させていただきましたので、その辺はご理解願いたいというふうに思います。

ただ、混乱を起こすんじゃないかというご指摘ですが、実際の出荷者募集に関しましては、条例というよりは、出荷者規定というものが別にあります。その中で、先ほど来、申し上げているとおり、品目に応じた手数料をはっきりと明示して募集してございますので、今後も、十分、誤解のないように市の広報、ホームページ等ではっきりと手数料率は明示して、出荷者の募集を続けたいというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

○議長（景山岩三郎） 市長。

○市長（明智忠直） 私も滑川議員が言われたとおり、ずっと最後まで建設準備委員会にお付き合いさせていただきました。細部にわたる手数料の問題も、建設準備委員会ではきちっと決めてあるわけでありまして、そういうことについて、今、企画政策課長のほうからお話がありましたように、条例は最大限の決まりの条例として作るということの中で、要項みたいなものを作りながら、きちっと、それぞれその場に必要部分は、条例の19条にありますように、条例の施行に関し、必要な事項は市長が別に定めると。手数料の問題は、細部にわたっての野菜の手数料とか、物販販売の手数料とか、そういったものは別に定めるというふうなことでやっていきたいと、そのように思いますので、ご理解をいただきたいと思います。

議会に、そういった細かい手数料の部分は、きょうは出していませんけれども、また全員協議会か何かの時に、細部にわたる手数料とか、そういったものは明示したいと、そのように思いますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（景山岩三郎） 滑川公英議員。

○17番（滑川公英） この条例のほかに、附帯でもう少し市民の皆様に分かるような方向でアナウンスしていただけるということですね。

先ほど、課長が言っているレストランというのは、お話になりませんよ。検討の中で1回もやっていないことを平気で議会で答弁するなんて、そんなふざけた話はないでしょう。訂

正するのか、しないのかだよ。

○議長（景山岩三郎） 滑川公英議員の再々質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長（横山秀喜） 先ほど訂正させていただきました。飲食提供施設ということで、よろしくをお願いします。

○議長（景山岩三郎） 滑川公英議員の質疑を終わります。

以上で通告による質疑は終わりました。

議案第2号の質疑を終わります。

議案第3号について、質疑に入ります。

質疑の通告はありません。

（「なし」の声あり）

○議長（景山岩三郎） 質疑なしと認めます。

議案第4号について、質疑に入ります。

質疑の通告はありません。

（「なし」の声あり）

○議長（景山岩三郎） 質疑なしと認めます。

議案第5号について、質疑に入ります。

質疑の通告はありません。

（「なし」の声あり）

○議長（景山岩三郎） 質疑なしと認めます。

議案第6号について、質疑に入ります。

質疑の通告はありません。

（「なし」の声あり）

○議長（景山岩三郎） 質疑なしと認めます。

議案第7号について、質疑に入ります。

質疑の通告はありません。

（「なし」の声あり）

○議長（景山岩三郎） 質疑なしと認めます。

議案第8号について、質疑に入ります。

質疑の通告はありません。

(「なし」の声あり)

○議長(景山岩三郎) 質疑なしと認めます。

議案第9号について、質疑に入ります。

質疑の通告はありません。

(「なし」の声あり)

○議長(景山岩三郎) 質疑なしと認めます。

議案第10号について、質疑に入ります。

質疑の通告はありません。

(「なし」の声あり)

○議長(景山岩三郎) 質疑なしと認めます。

議案第11号について、質疑に入ります。

質疑の通告はありません。

(「なし」の声あり)

○議長(景山岩三郎) 質疑なしと認めます。

議案第12号について、質疑に入ります。

質疑の通告はありません。

(「なし」の声あり)

○議長(景山岩三郎) 質疑なしと認めます。

以上で議案質疑を終わります。

◎追加日程 議案第5号、第6号直接審議(先議)

○議長(景山岩三郎) ここでおはかりいたします。議案第5号、議案第6号は人事案件でありますので、委員会付託を省略して本日の日程に追加し、直接審議にて先議いたしたいと思いますが、これに決するにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(景山岩三郎) ご異議なしと認めます。

よって、議案第5号、議案第6号は委員会付託を省略して、本日の日程に追加し、直接審議にて先議することに決しました。

議案第5号、議案第6号は人事案件でありますので、討論を省略して採決いたします。

議案第5号、旭市固定資産評価員の選任につき同意を求めることについて、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長（景山岩三郎） 全員賛成。

よって、議案第5号は同意することに決しました。

議案第6号、旭市教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長（景山岩三郎） 全員賛成。

よって、議案第6号は同意することに決しました。

◎日程第2 常任委員会議案付託

○議長（景山岩三郎） 日程第2、常任委員会議案付託。

これより、各常任委員会に議案を付託いたします。

議案第1号から議案第4号までと議案第7号から議案第12号までの10議案を、お手元に配付してあります付託議案等分担表1、議案の部のとおり、所管の委員会に付託いたします。

付託いたしました議案は、6月23日までに審査を終了されますようお願いいたします。

◎日程第3 常任委員会請願付託

○議長（景山岩三郎） 日程第3、常任委員会請願付託。

本定例会までに提出されました請願は、請願第1号、請願第2号の2件であります。

配付漏れはありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長（景山岩三郎） 配付漏れないものと認めます。

これより、常任委員会に請願を付託いたします。

請願第1号、請願第2号の2件について、お手元に配付してあります付託議案等分担表2、請願の部のとおり、所管の委員会に付託いたします。

付託いたしました請願は、6月23日までに審査を終了されますようお願いいたします。

○議長（景山岩三郎） 以上をもちまして、本日の日程は全部終了いたしました。

これにて本日の会議を閉じます。

なお、本会議は6月15日定刻より開会いたします。

大変ご苦労さまでございました。

散会 午前10時53分